

小5 伝え合って考えよう 人と「もの」との付き合い方

研究主題 「確かな国語力を育むための国語教育の在り方」
一聞き手の反応を確認しながら、声の大きさや速さ
などを工夫して話せるための指導法の工夫一

日立市立久慈小学校 後藤 誠

1 はじめに

国語科改訂の要点の目標のところに「国語科の最も基本的な目標である国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高めることを位置付けている。」そして、「伝え合う力を高める」とは、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることである。」と述べている。「伝え合う力」の重要さが読み取れる。

本学級では、「読む活動」が好きな児童が多いが、「話す活動」や「聞く活動」を苦手としている児童が多い。「話す活動」では、発表の時に声が小さかったり、スピーチの時に自信をもって行ったりすることができない。また、「聞く活動」でも、聞く姿勢ができていない児童が少なからず見られる。「読む活動」では、読書を進んで行ったり、家庭で音読をしたりしている。

そこで、相手に分かりやすく、説得力のある発表をするためには、話の組み立てを工夫したり、相手に問いかけるような表現や話し方を工夫したりする必要がある。まずは話の組み立てを変えると印象がどう変わるかに気づかせるために、実際にメモを並べ替えて考えさせたい。また、話し方のポイントを話し合い、自己評価・相互評価の観点を設定する。そうすることで、自信をもって伝え合うことができるように本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 話の組み立てを工夫すれば、分かりやすく、説得力のある発表ができるであろう。
- (2) 話し方のポイントや場を工夫すれば、自信をもって発表ができるであろう。
- (3) 聞き方のポイントを理解すれば、聞く態度が身につくであろう。

3 実践事例

(1) 学習指導案

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 後藤 誠

1 単元 伝え合って考えよう 人と「もの」との付き合い方

2 目標

- (1) 資料「ごみ問題ってなあに」を読んでごみ問題に関心を持ち、自分なりの課題をもって調べることにより、自分の考えを深めようとすることができる。
(関・意・態)
- (2) 自分の課題について調べた内容や感想が友達に分かるように、組み立てを工夫して話すことができる。
(話すこと・聞くこと)
- (3) 友達の考えと自分の考えとの違いや共通点を明確にしながら発表を聞くことができる。
(話すこと・聞くこと)
- (4) 自分の考えと他の考えを対比したり、自分の体験や知識と自分の意見とを区別したりしながら、文章を組み立てて書くことができる。
(書くこと)

3 単元設定に当たって

本単元では、資料「ごみ問題ってなあに」を例にとり、環境問題の中でもごみ問題に視点をあて、自分の疑問点・調べたいことをもとに相手にわかりやすいレポートをつくるものである。子どもたちは4年生の社会でリサイクルやごみ処理について調べているので、抵抗なく、取りかかれる課題である。説明文の最後にふえ続けるごみについてどうするか、問題を投げかけており、子どもたちに考えさせるよい文章となっている。後半の調べよう・発表しようでは、相手にわかりやすいまとめ方や発表の仕方について説明してあり、友達の意見を聞くことによって、自分の考えを深めていくものである。

4 指導と評価の計画（15時間取り扱い）

時間	学習のねらい	学習形態	観点	評価基準（評価方法）	努力を要する児童への手だて	
1次	1時	・教科書を読み，身近な環境問題について調べてみたい課題を考える。	一斉	関	・教科書の問題提起に対して身近な生活から疑問などを見つけようとしている。 (発表・観察)	・身近な環境問題に関心をもたせるようにする。
	2時	・資料を通読し，人と「もの」との付き合い方について考え，自分の生活に照らして感想をまとめる。	一斉個人	関	・教科書の資料から事例や筆者の主張を読み取り自分の生活と比べて感想をまとめ，課題を見つけようとしている。 (発表・観察)	・資料から読み取ったことについて，自分なりの感想を書くように助言する。
	3時	・疑問に思ったことなどをグループで話し合い，調査計画を立てる。	グループ個人	関	・自分が調べてみたいごみ問題について課題を見つけ，進んで学習計画を立てている。 (観察・ワークシート)	・教科書の課題の例を参考に課題を決めるように助言する。
2次	4・5時	・調べ学習を行い，結果を必要に応じて整理する。	個人	書	・自分の課題を解決するために，計画にしたがって調べ学習を行い，結果を整理している。 (観察)	・まとめる方法を個別に支援する。
	6時	・発表メモを作成し，それらを並べ替えながら，聞き手によく分かるように，話の組み立てを工夫する。	個人	話聞書	・発表メモを作成し，聞き手によくわかるように話の組み立てを工夫している。 (ワークシート)	・発表メモの作成の仕方を助言する。
	7・8時	・発表メモをもとに，必要な資料を整理して作成する。	個人	書	・発表メモをもとに，必要な資料や調査結果を整理して，効果的に資料を作成している。 (資料)	・資料の作成の仕方を助言する。
	9時本時	・発表原稿をもとに，適切な言葉遣いで発表する練習をする。	一斉グループ	話聞	・発表原稿をもとに，適切な言葉遣いで話している。 (発表)	・発表原稿をもとに発表ができるようにする。
	10・11時	・発表を行い，自分の考えと照らし合わせながら友達の発表を聞いて自分の考えを深める。	一斉グループ	話聞	・友達の発表を自分の課題や考えと比べたり，メモを取ったりしながら聞き，自分の考えを深めている。 (観察・聞き取りメモ)	・友達の発表をしっかり聞けるようにする。
3次	12・13・14・15時	・自分の課題やそれに対する考え，友達の発表を聞いて考えが深まったことなどを整理し，自分の生活を見つめ直して文章を書く。	個人	書	・自分と友達の考えを比べ，自分の生活を見つめ直し，事実と感想・意見を区別しながら，自分の考えが明確になるように組み立てを考えて，文章を書くことができる。 (作品)	・発表原稿をもとに意見文を書くように助言する。

5 本時の指導

(1) 目標

- 発表原稿をもとに，適切な言葉遣いで発表の練習ができる。

(2) 準備・資料

課題（掲示用） 話し方・聞き方のポイント（掲示用） 評価カード
振り返りカード

(3) 展 開

学習活動及び内容	資 料	教師の支援・配慮と評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 発表原稿をもとに発表の練習をしよう。</p> <p>2 発表の目的や仕方、練習方法や聞き方を確認する。 【目的】 ごみ問題について自分の調べたことや考え、提言を友達に伝える。 【話し方】 ・声の大きさ、速さ ・姿勢、視線 ・話しかけるような言い方 ・表情 ・言葉遣い 【聞き方】 ・態度、姿勢 【練習方法】 ・グループで交代で発表の練習をする。 ・観点ごとに自己評価や相互評価をする。 ・グループで進行役を決める。</p>	<p>課題用紙</p> <p>ポイントカード 評価カード</p>	<p>・本時の課題を提示し、学習意欲の喚起を図る。</p> <p>◎話し方や聞き方のポイントを提示し正しい話し方や聞き方を確認させるようにする。 ・評価カードを配り、観点ごとに自分や友達の発表を振り返るようにしたり、自分がかんばりたいめあてをはっきりさせたりするようにする。 ・練習方法を確認し、練習の場面では児童に主体的な活動として取り組ませていきたい。 ・6つのグループに分かれ、場の設定をし、発表の準備ができるようにする。 ・グループで進行役を中心に発表の練習が進められるようにする。</p>
<p>3 発表の練習をする。 【場】 体育館のコーナーで、5人位の友達に聞こえるように話す。 【適切な言葉遣い】 発表会という場面を意識して、発表メモをもとにいていねいな言葉遣いで話す。</p>	<p>発表原稿</p>	<p>・友達の発表が終わるごとに、自己評価や友達のよさを見つける相互評価を行うようにする。 個 話し方のポイントをもとに、具体的な助言を行う。 個 聞く姿勢ができていない児童には話し手を見て、だまって聞くように助言する。</p> <p>評 発表メモをもとに、話し方に気をつけて適切な言葉遣いで発表する練習ができたか。(観察・評価カード) ・発表が終わったグループは評価カードを整理するように指示する。 ・発表が上手にできた児童に発表させ良い点を賞賛する。 ・本時の学習のまとめをし、次時の学習を確認する。</p>
<p>4 本時を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>振り返りカード</p>	

(2) 指導の実際

ア 本読みカード

児童は毎日、家庭で音読を行っている。自分が読んでいる本や国語で学習した物語などを読んで、本読みカードに記録している。また、本読みカードには、「一行日記」の項目があり、心に残った出来事などを感想を含めて書いている。素直に表現した文章が多く、それを話題として児童との触れ合いを図っている。一行日記が苦手な児童には、その都度アドバイスをしている。文章表現力が身に付くための一環としている。

イ 朝のスピーチ

朝の会の時に、日直が話をすることになっている。がんばったことや楽しかったことなどを話している。みんなに伝わるように、声の大きさや速さに注意させながら話ができるように支援している。聞く方も感想や質問ができるように耳を傾けて

いる。

ウ 音読発表会

授業の中では、様々な形で音読をすることで、音読の楽しさを味わわせるようにしている。会話の部分は、その時の登場人物の気持ちが伝わるように、工夫して読ませるようにしている。発表会では、良く読めた児童を賞賛し、読むことへの自信を深めさせるようにしている。

4 研究の結果

- 仮説1について
同じ内容でも話の組み立てを工夫することで、分かりやすく、説得力のある文章になり、聞く方も興味深く、しっかり発表が聞けるようになった。
- 仮説2について
話し方のポイントを確認したり、場の設定（体育館のコーナー）を工夫したりすることで、聞き手を意識したり、声が小さい児童が自信をもって発表することができた。
- 仮説3について
聞き方のポイントを確認することで、聞く姿勢が身に付いたり、友達の発表の良い所を見つけようという態度で聞いたりすることができた。

5 今後の課題

実践事例では、グループの人数を考慮する必要があった。もう少し、人数を少なくして発表時間を減らし、一人一人の発表に集中させるためである。さらに、グルーピングには、児童の人間関係を配慮する必要があった。高学年になると人間関係が複雑になってくるからである。

「伝え合う力」を高めるためには、普段の生活の中で何でも話せる雰囲気を作っておくことが大切であると思う。児童同士、児童と教師がいつもオープン状態で、情報を共有し、信頼関係の中にいることが基盤になってくると思われる。それが、学習活動や学級経営の中で生きてくると考える。お互いに認め合い、励まし合うことで、学級の児童がいろいろな面で向上できるように見守っていきたい。